

四電社長

伊方トラブル頻発陳謝

知事ら徹底究明要求

四国電力伊方原発(伊方町)でのトラブル頻発を受け、長井啓介社長は27日、県庁で中村時広知事と面会して陳謝し「全身全霊を傾けて原因究明、対策の検討に当たる」と報告した。中村知事が山田研二原子力本部長を伊方原発に常駐させるよう要望。長井社長は、面会後の取材で山田本部長を当面原発周辺に居住させ原因究明などの陣頭指揮を執らせる方針を示したほか、運転差し止めを命じた広島高裁の仮処分決定への異議申し立てを当面見送る方針を示した。

(3面に関連記事)

運転 異議申し立て延期

中村知事は、現状を「県民の不安、不信感がかつてない高まりだ」と認識してほしい」と強調。トラブル時には自ら伊方原発に赴き、訓示などをしてきたとの長井社長の説明には「通うという段階ではない。本部長が常駐して指揮を執るべき」と述べた。

さらに、各事象の原因を徹底的に究明し対処することなしに「(定検作業再開など)次のステップは到底容認できない」とくぎを刺し、「一連の問題を県伊方原発環境安全管理委員会で公開審議する考えも示した。」

は考えていない。安全対策の取り組み状況も踏まえ総合的に判断する」と述べた。

長井社長は27日午後、伊方町役場で高門清彦町長と面会し、一連のトラブルを陳謝した。高門町長は「前例がない事象が連続するのは異常事態。伊方原発への町民の信頼を根幹から揺るがしかねない重大な事態」と述べた。



高門町長は「安全対策への組織体制の在り方を含め、あらゆる角度から調査し、問題点の究明並びに早急な改善を求める」とする検討を最優先に取り組み」と述べた。

高門町長は面会後の会見で、信頼関係の根底にある

中村時広知事(右)に伊方原発でのトラブル頻発について陳謝し、対応方針を説明する四国電力の長井啓介社長(中央)ら。27日午前、県庁(撮影・森岡岳夢)

のは原発の管理運営を安心して任せられる信頼感だと指摘。四電の定検停止は「適切」と評価しつつ、再開には「原因究明の報告を受け取り、これなら大丈夫と思えることが大切」との見方を示した。

3号機は19年12月に定検入りし、今年4月に営業運転再開の予定だったが、トラブルによる定検作業停止に加え、申し立てを当面見送ることで長期停止の可能性が出てきた。

21年3月の期限までに設置できなかったら、運転を認めないという方針を原子力規制委員会が示している。アロ対策の「特定重大事故等対処施設(特重施設)」も、完成が期限から1年程度遅れる見通しとなっている。

(森岡岳夢、伊藤愛、今西晋)

電源喪失 送電線一部で設備故障

四国電力伊方原発(伊方町)の電源一時喪失トラブルを供給する送電線の1回

線で設備故障があり、同回線を切り離して、他の回線を復旧させたとする四電の調査結果を発表した。四電は「ヒューマンエラーの可能性は低くなったが、予断を持たずに詳細な原因調査を続ける」としている。

県と四電によると、伊方原発に外部電源を供給する3種の電圧の送電線計7回

25日からの四電の調査で、遮断器が作動した4回線のうち、1回線の保護装置内で、微少な放電が起きた場合に発生するガスの成分を検出し、故障箇所と特定。27日午後5時13分に、その1回線を除く3回線を復旧させ、18万7千ボルトの送電線からの電源が確保された。

四電は放電の原因も含めて詳しく調査するとしている。

(森岡岳夢、今西晋)

ピントの豆知識



あすのピントの小学校紹介は城川小!

東京五輪後の9月に愛媛県で、原則35歳以上を対象にした総合スポーツ大会があるよ。名称は何か?

①全国健康福祉祭(ねんりんピック) ②日本スポーツマスターズ ③国体

答えは8面。

【紙面編集】吉岡耕太